

亜鉛めっき製品の白さび・黒変についてⅡ

『溶融亜鉛めっき仕上げのケーブルラックを屋外に施工する際、カバーを屋外にシートをかけて保管し、ケーブル敷設が終了して、いざカバーを取り付けようとシートを外し梱包を解いたら、なんと“おねしょ”の跡のような白さびが発生、又部分的に黒変していた。』

このような経験をお持ちの方はいらっしゃいませんか？

保管中直接雨水がかからなくても、結露により水滴が付着します。(屋内保管の場合でも同様の問題があります。)特にラックカバーの場合は面と面の接触部分に水が入ると晴天のときにシートを外しても、カバーとカバーの間に溜まった水は乾燥しにくく、水溜まりの縁の部分に白さびが発生し、さらに進行すると黒変が生じます。

白さび、黒変は耐食性への影響は少ないとはいえ見栄えが悪くなります。

白さびの状態であれば、搾った雑巾等で白さびを拭き取ってから施工しただけでも、日時と共に外観の差はなくなってきます。

白さび発生には水分が関与します。濡れて容易に乾燥しないような環境にさらされた時に発生します。早い時には2時間ぐらいで発生する時もあります。

保管方法としては乾燥した床面から10cm以上空間をあけ荷積みすると同時に、特にカバー等では面と面とが接触しないように、又、通気性も考慮してプラスチック等のスペーサーで2cm以上空間をあけて下さい。

尚、スペーサーに木材を使用すると含まれている水分や有機酸によって接触部分に白さびや黒変が生じるので、木材は使用しないで下さい。

又、水に濡れたり結露した時は速やかに水分を拭き取り、すぐ乾燥させるようにして下さい。